

報道関係者各位

令和3年3月29日

10月、東京で「全国産業安全衛生大会」を開催！

特別講演に 六代目 三遊亭円楽氏 を招聘

約200の講演・事例発表を現地&オンラインで

「緑十字展」も初のオンライン併催

中央労働災害防止協会（略称：中災防、会長 中西宏明・日本経済団体連合会会長）は、令和3年10月27日（水）～29日（金）に、東京で「第80回 全国産業安全衛生大会」（以下、東京大会）を開催します。80回の節目となる今年は、新型コロナウイルス感染症の防止に配慮するとともに、リモートワークやオンライン会議等の普及・浸透を背景に、現地開催とオンライン配信を並行して行うハイブリッド方式で展開します。また、毎年併催する安全衛生分野で国内最大の展示会「緑十字展」も、現地会場とオンライン両方での開催を予定しています。

全国産業安全衛生大会は毎年1万人超が集まる国内最大の“安全文化”の祭典で、全国の企業の経営者や産業安全・労働衛生担当者、産業保健スタッフ、医療従事者、自治体、大学等の教育研究機関などの労働安全衛生関係者が一堂に会し、さまざまな業界・業種の労働災害防止対策や最新の労働安全衛生施策・活動などについての情報を収集・共有し、学び合い、交流する場です。緑十字展は、安全衛生保護具や働く人の健康づくりのための製品・サービスを紹介する展示会で、3日間の会期中に延べ約2万人が来場します（別紙に大会・緑十字展 沿革）。

東京大会は、新型コロナウイルス問題を受け、感染拡大防止を徹底する観点から来場者数を抑えるとともに、オンラインを効果的に活用することで、新たな参加者層やニーズの開拓も期待できるとみています。テレワークの拡大など働き方の変化、感染症やメンタルヘルス不調への新たな対策など、業種・規模の枠を超えた共通の課題・テーマにも焦点を当て、コロナ禍の安全衛生施策等の情報を共有する場としたい考えです。

現地開催の会場は東京国際フォーラム（東京・有楽町）で、総合集会および分科会を行います。分科会は14テーマ（**末尾の一覧参照**）を予定しています。

初日の総合集会の特別講演では、三遊亭円楽氏が登壇。「笑顔の日本語～ユーモアコミュニケーション～」と題し、対面での会話が減っている現状の中で人と人をつなぐ言葉とユーモアの大切さをテーマに話します。ライブ配信も行う予定です。

例年、各種講演は分科会ごとに盛り込んでいますが、今年は講演をひとつのホールに集約し、2日間にわたって行うプログラム構成とします。

講演者として、渋澤健氏（コモンズ投信株式会社取締役会長）の「渋沢栄一の『論語と算盤』で未来を拓く」、中川恵一氏（東京大学医学部附属病院准教授）の「コロナとがん～リスクが見えない日本人」が決まりました。今後、随時、新たな講演者等を追加していきます。

オンラインは、ライブ配信に加え、大会終了後の11月1日から1カ月間、オンデマンド配信も行います（三遊亭円楽氏の特別講演はライブ配信のみ）。現地開催は、新たなネットワークづくりをその場でできるなどの特徴があります。一方、オンライン開催は、時間や場所を選ばずに、より多くのプログラムを自由に聴講でき、幅広い分野の情報収集が可能です。中災防では、現地・オンラインそれぞれの利点を生かせるよう、会期中のプログラムを構成していきます。参加費は現地開催・オンラインとも13,200円。参加申し込みは6月から受け付ける予定です。

「緑十字展2021」は入場無料。東京大会参加者を中心に、一大市場である首都圏の企業・団体関係者ら多数の来場が見込まれます。今年は、会場展示とオンライン展示の両方で展開するため、出展者・来場者ともに、状況やニーズに応じて展示の選択ができます。オンラインは

開催期間を約1カ月と長期に設定しており、出展者には新規販路開拓の機会増大が期待できます。現地開催・オンラインとも出展の募集は4月1日から行います。

中災防は昨秋、コロナ禍の中、札幌市で開催予定だった第79回全国産業安全衛生大会の現地開催を中止しました。しかし、「安全衛生分野への関心や機運を高め、安心・安全な職場づくりを目指す一助になりたい」（理事長・八牧暢行）として、予定されていた企業の研究発表や報告、有識者の講演要旨等を取めた資料集をホームページ（<https://www.jisha.or.jp/>）で公開しました（公開中）。また、緑十字展についても出展が決まっていた企業・商品情報などをホームページに掲載しています。

誰でも閲覧できる形で情報を公開した昨年大会・緑十字展の経験を今後に生かすためにも、東京大会・緑十字展を安全に開催し、オンライン活用を含めたこれからの時代の大会・緑十字展のあり方を前向きに模索する機会にしたい考えです。

【東京大会で設置予定の分科会】

- ・安全管理活動分科会
- ・マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会
- ・安全衛生教育分科会
- ・ゼロ災運動分科会
- ・交通安全分科会
- ・メンタルヘルス・健康づくり分科会
- ・ダイバーシティ・インクルージョン分科会（高年齢労働者の労働災害防止対策・健康づくり〈エイジフレンドリー〉、防災、新型コロナウイルス感染症、働き方改革等を含む）
- ・機械・設備等の安全分科会
- ・AI・IoT等分科会
- ・第三次産業分科会
- ・中小事業場分科会
- ・労働衛生管理活動分科会
- ・化学物質管理活動分科会
- ・製造業安全対策官民協議会 特別セッション

※この資料は、厚生労働記者会、労政記者クラブ、厚生日比谷クラブ、自動車産業記者会、鉄鋼研究会に配布しています。

【担当】	中央労働災害防止協会
	教育ゼロ災推進部 部長 早木 武夫
	同 次長 林 かおり
【照会先】	総務部 上席専門役 高橋 まゆみ
	同 広報課長 道野 真貴子
	(電話) 03-3452-6542 03-3452-6449

全国産業安全衛生大会の 誕生とあゆみ

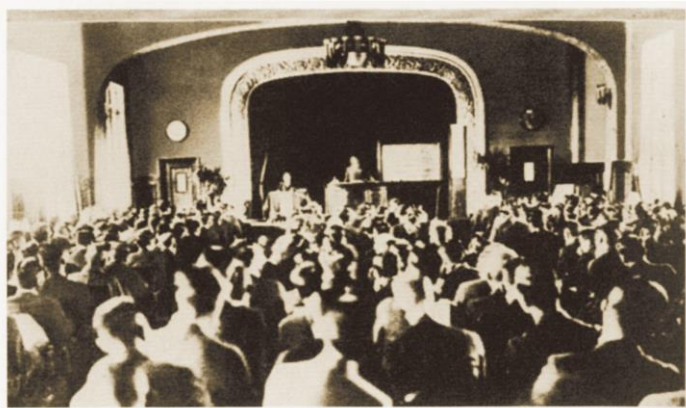
◆ 昭和7年、第1回『全国産業安全大会』 東京で開催

第1回の全国産業安全大会が、(財)産業福利協会の主催により、1932(昭和7)年11月21日から3日間、東京・神田の学士会館で開催され、300人を超える人たちであふれた。

安全運動の先駆者・蒲生俊文の司会のもと、“同志が集う”会場には熱気があふれ、互いに手を取り合って安全運動を推進していこうとする連帯ムードが高まった。

大会の目的の一つである「連帯」は十分に果たされたが、それにも増して注目されるのは、その後ひたむきに継続されることとなる安全対策への「科学の導入」といえるものであった。

それは、「人間とは何か」にメスを入れ、人間の持つ弱点をカバーする方策に取組もうとする科学的姿勢が、企業の中に生まれつつあることを示したものであった。



盛況な第1回全国産業安全大会（昭和7年11月、東京・学士会館）

◆ 昭和29年、第1回『全国労働衛生大会』 東京で開催

1954(昭和29)年10月14、15日の2日間、東京の読売ホールにおいて、全国から1,300人の主に労働衛生管理に携わる関係者が集い、第1回の全国労働衛生大会が開催された。

北は富士製鉄(株)室蘭製鉄所から南は旭化成(株)延岡工場まで、いずれも衛生管理の進んだ事業場からの発表であった。結核、鉛中毒、けい肺などの予防に関する報告が目立った。

◆ 昭和44年に『安全大会』と『労働衛生大会』が一本化されて『全国産業安全衛生大会』に

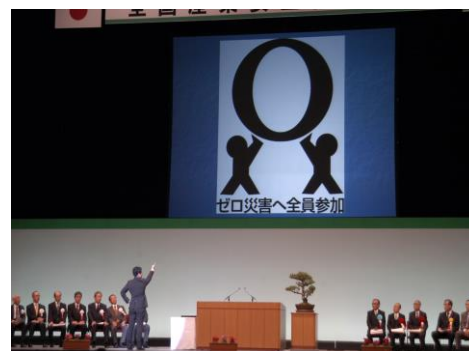
1967(昭和42)年の東京大会は、労働基準法施行20周年記念大会として初めて安全、衛生両大会の合同開催となり、参加者は13,000人を数えた。



全国産業安全衛生大会・総合集会

翌々の1969年(昭和44年)には、現在の「全国産業安全衛生大会」の、原型が生まれ、内容を拡充するとともに、「緑十字展」を盛大に開催することとなった。

2020(令和2)年、第79回大会は札幌で開催予定だったが、コロナ禍で第二次世界大戦に伴う中止以来の現地開催中止を余儀なくされた。今回、東京での開催は10年ぶりとなる。



総合集会・災害ゼロへの誓い

「緑十字展」も東京で併催

◆ 緑十字展とは

安全衛生保護具、機械の本質安全化にかかる機器、職場環境・作業方法の改善機器、健康増進機器等の展示や装着体験セミナー等を通じて、職場の安全衛生を普及・促進し、労働災害の防止、働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境づくりに関する安全と健康の最新情報と技術をご紹介しますわが国最大の展示会である。



緑十字展のようす

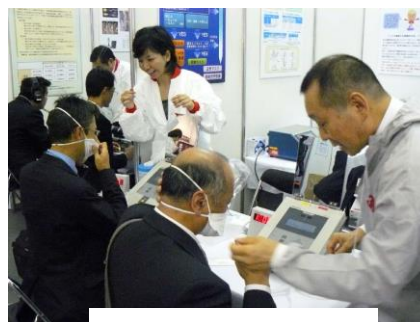
◆ 第1回緑十字展は昭和43年、安全会館(東京都港区)で

1968(昭和43)年9月30日から10月7日にかけて、東京都港区の安全会館および同会館前広場において、全国労働衛生週間にあわせて開催された。

翌1969(昭和44)年に名古屋市で開催された全国産業安全衛生大会から、毎年同時開催するようになり、現在に至っている。



墜落衝撃実験



安全衛生保護具体験道場

参考資料:「安全衛生運動史・安全専一から100年」(中災防発行)
「日本労働災害推進会のあゆみ」(日本労働災害推進会発行)